

## 発葬誄詞

これの小床を仮の喪屋と齋い定めて暫し置き据え安め奉る故天理教△△分教会よふばく△△△△大人の御柩の御前に慎み敬い歎かいて白さく

久方の空行く月の清き光りにも立迷う浮雲の障りあるが如く 春山に咲き乱れる花の梢にも吹き荒ぶ嵐の嘆きあるが如く あわれ汝大人はもかりものという世の慣い得免がれ給わず未だ心残れるこれの現世を退向になされしは悲しとも悲しく口惜しくとも口惜しき限りにぞある

汝大人はやその妻なる△△夫人の導きにより○分教会の草分けの頃よりたすけ一条の道の影武者となり殊には教会が大東亜戦争によりて灰燼の憂き目にある時 いち早く汝大人の誠心もて十数里隔てたる立川の町に出で山なす木材を大八車に乗せて遠き道程を横浜なる西戸部の里に運び込まれ 戦災復興の第一人者となられしが そは地域社会の眼の見張るところとなり 為に親神の名を光り挙げられしのみならず 上級に一時鎮め遷し奉りしお目標様を迎え 朝に夕におつとめをつとめ 勞づく角目の道を開かれたり かくて○分教会の信徒総代として節々には固く真面目なる性質のまに／＼集まりの處には静かなる姿を見せられ あるいは又会社休みを利用しひのきしんに親しまれし時なぞ一息する暇さえなく げに”口さきのついしよばかりはいらんもの 心のまこと月日みている”の御言葉を地で行かれたり 近く△△分教会が末代だすけの道場たる神殿ふしんにかゝられし時なぞ 汝大人は頼みもせず頼まれもせず病み倒れし故△△△△刀自の心を思い 仕事場の片付けに余念なかりし伏せ込みはあ、今も尚忘れ得ぬ語り草の涙なり

大声を挙げず黙々として生涯を貫かれしその働きに守られ生かさされ これの○○家の子たちみなそれぞれに修養科に学び 全員よぶごととなり一手一つのひながた家族へとすすまれし汝大人の功績は○分教会ある限り後に続く者の道標とならん さわれ空蟬の世は定め難きものは 重き御病に床に伏されしが 家族親族相共にひたすらに親神に乞い祈み奉り 元の如く壮健なる体に帰し 今暫時の余生を楽しまれんことをし願ひけるに その甲斐もなく医師の業も尽き果て、この年この月二十五日午後二時齡八十才を生きの涯りと今年六、七、八の修養科の学びを来世に向うみやげとし花道として逝く水の還らぬ如く 入る月の影消ゆるが如く忽ちに朝霞のごと夕霞のごと果敢なく身退り坐しつるは 云わぬ術為む術知らに今更に夢見る心持になむ あわれ悲しきかもあわれ口惜しきかも 今日よりは汝大人がポツポツ漏らされる言葉聞こえずやなりけむ あすよりはいそ／＼と絶えず立ち働かれる汝大人の御姿永久に見えずやなりけむと 雨雲の空かき曇る心持なまするを人々暗夜に灯火を失うが如く 漂う船の舵なきが如く憂い惑い 枕辺に棲這い脚辺に匍匐い歎き悲しみ慕い参るも現世の人の情の理なれど 身退りし人の蘇えるべくもあらず今は御教の定め式のまに／＼一世の終の式儀仕え奉りて永き別れを告げ奉らくと 御前に御酒御食海川山野の種々の味つ物を捧げ奉りて事の由を告げ奉らなくを平らけく安けく諾い給いて 我が親神の恩恵を思い頼み百足らず八十の隈路を迷う事なく唯一筋に親神のふところに行き奉りて 遺れる家族親族たちを己が向々あらしめ給わず清き赤き直き心もて 先ずは眼先に迫れる教祖九十年祭の仕上げのつとめに勞き奉らしめ給い 汝が遺骸は千代の住所と定め奉れる奥つ城所に平らかに安らかに出て立ち給い 汝大人は再び新しき着物を召されていち早く この世に出直し給えと○分教会に伏せ込まれし功績を深く感謝しつゝ、露けき袖の涙をはらい謹み敬いて白す